

社会科学習指導案

鶴の台小学校
指導者 柴田 溪介

- 1 日 時 平成29年11月6日(月) 5校時 13:55~14:40
- 2 場 所 5年2組教室(北側校舎3階)
- 3 学年・学級 第5学年2組 39名
- 4 単 元 名 社会 下「くらしを支える情報」
「P24 情報を受け取り、発信するわたしたち」

5 単元について

(1) 教材観

本小単元では、情報化の進展によって人々の生活がどのように変わったのかを捉え、情報化の進んだ社会の中で自分たちはどのようにインターネットなどの情報を扱っていけばよいかを考えていく。多くの子どもが、日常生活の中でインターネットをすでに体験している。その体験をもとに、インターネットのない生活を想像させたり、インターネットの利用に際して不安なことを想起させたりして、実際の生活に引きつけながら学習を展開していくことを心がける。

インターネットや携帯電話の急速な普及に伴って、SNSを中心に児童がトラブルに巻き込まれたりする事例が増加してきた。SNSを使ったコミュニケーションでは、匿名性が高いため、安易に情報を発信してしまいがちである。相手の顔が見えない状況だからこそ、受け取った側の気持ちを考えて伝えることが重要である。そこで、メールを題材にして情報モラルを問われる場面を設定し、情報の真偽を判断し、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを理解させることをねらって主題を設定した。

(2) 児童観

事前のアンケートによると、約8割の家庭にコンピュータがあると答え、そのうちほとんどの家庭がインターネットに接続できる環境にある。動画を見たりゲームをしたりするなどする用途で使用している。携帯電話の保持率は、自分用・家族との共有を合わせると全体の約6割であった。色んな情報ツールの家庭での保持率は、今後ますます増加することが予想される。

コンピュータに対する技能は、ほとんどの児童がローマ字入力ができるが、文字を打つスピードは個人差が大きい。スマートフォンやキッズ携帯でメールのやり取りを経験した事のある児童は半分以上である。

ライン等のSNSで連絡を取り合っている児童の中には、特定の人物を仲間はずれにする「ラインいじめ」に近いトラブルに巻き込まれている児童もいた。まだ少数ではあるが、大きな問題に発展する可能性も大きい。携帯やパソコン等でラインやメールをすることに興味がある児童がほとんどであるが、危険性や課題も多くあると考える。

(3) 指導観

本時の指導に当たっては、総合的な学習の時間に事前にジャストスマイルに入っている「つたわるねっと『チャット』」を使用して、メールのやりとりを全児童に体験させておく。その際に、メールを未体験の児童もいるため、児童全体の様子を見ながら活動を進めていくようにする。

導入では、メールのやり取りの体験を想起させながら、楽しかったことや便利な道具(情報ツール)であることをとらえさせる。その後、学習で実際のチャットでのやりとりを見返しながら自分たちの会話が適切だったか判断する。そして、問題がある点を話し合わせて、全体で議論していく。その後、メールをする時の正しいマナーについて知らせる。また、文字だけのコミュニケーションの中で、大切なことや心がけてな

なければならないことについて考えさせる。

本時の授業を通して、SNS の利用の際に気をつけなければならない点について考え、正しい知識を身に付けて欲しいと考える。

6 単元の目標

情報の発信者・受信者として気をつけるべきことや、情報を生活に生かしていくために大切なことを捉えられるようにする。

7 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自分の体験や様々な資料をもとに、SNS の利便性について意欲的に調べるとともに、利用に際して注意すべきことも積極的に考えを出し合い、話し合おうとする。	情報化が進んだ生活の中で、自分はどのようなことに気をつけて暮らしていけばよいか考え、表現している。	情報化の進展の様子や、生活にもたらす利便な点・不安な点などを、適切な資料を活用して読み取っている。	情報化が進んだ社会における携帯電話やパソコンの利便性や効率性などとともに、注意点や問題点についても理解している。

8 単元（題材）の指導計画・評価計画（12時間扱い、本時は4/12）

時	ねらい	主な学習活動・内容	評価の観点			
			関	思	技	知
1	情報と生活との関わりについて興味や関心を持ち、調べる意欲をもつことができるようにする。	自分たちの身のまわりにはどのような情報があり、何を通して伝えられているか、イラストから見つけ出す。	○			
2 3	情報のやり取りをチャットを使って行い、チャットの利便性を実感する。	「つたわるねっと『チャット』」を使用して、メールの利便性について理解する。	○			
4 本時	チャットの利用の際に気をつけなければならない点について考え、自分の言葉で表現できるようにする。	前回までに行った「つたわるねっと『チャット』」の内容から、チャットでのやりとりの注意点や問題点について理解する。		○		○
5	緊急地震速報が届く仕組みなどを調べることを通して、大事な情報がどのように人々に伝えられ、生活に影響を及ぼしているのかについて、学習問題を立てることができるようにする。	災害時にはテレビや携帯電話を通じて、緊急地震速報など必要な情報がすばやく届けられる仕組みが整えられていることを知る。	○	○		
6	テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきについて捉えることができるようにする。	テレビのニュース番組がどのようにつくられて放送されているのか、資料を読み取って調べ、分ったことを話し合っまとめる。			○	
7	災害時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色や、それらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性を捉えることができるようにする。	東日本大震災の時に役立ったメディアに関する資料などをもとに、自分たちが日頃、様々なメディアから情報をてにいれていることを調べ、そのとくしょくや活用の仕方について話し合う。				○

8	放送局や新聞社で働く人たちがさまざまな注意を払って情報を発信していることなどを調べ、マスメディアの情報と自分たちの生活との関わりについて考えることができるようにする。	マスメディアが伝える情報の違いや影響について調べ、マスメディアが発信する情報と自分たちの生活との関わりについて話し合い、まとめる。		○		○
9	情報ネットワークを利用した図書館サービスの便利さについて調べ、他にも様々な場面で活用されている情報ネットワークについて、調べる意欲をもつことができるようにする。	自分の体験した資料をもとに、情報ネットワークを利用した図書館サービスを調べ、様々な場面での情報ネットワークの活用について話し合い、学習問題を立てる。	○	○		
10	情報ネットワークを利用した病院の取り組みについて調べ、患者や医師がどのように便利になったかを捉えることができるようにする。	情報ネットワークを利用した様々な病院の取り組みについて様々な資料を読み取って調べ、どのような便利さがあるのかをまとめる。		○	○	
11	情報ネットワークを利用した救急医療や医療情報発信の取り組みについて調べ、地域が一体となった医療情報ネットワークの広がりとその利便性について捉えることができるようにする。	情報ネットワークを利用した救急医療の取り組みについて、様々な資料を読み取って調べ、どのような便利さがあるのかをまとめる。		○		
12	図書館や医療分野以外でも情報ネットワークを利用している場面を調べ、自分たちの生活がどのように便利になっているのか、考えをまとめることができるようにする。	情報ネットワークを利用した様々な例を調べ、情報ネットワークの活用について考えをまとめる。		○		○

9 本時の授業計画

(1) 本時の目標

本時の授業を通して、チャットの利用の際に気をつけなければならない点について考え、表現できるようにする。

(2) 本時の観点別評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
	自分たちが行ったチャットでのやり取りを振り返り、自分たちはどのようなことに気をつけて暮らしていけばよいか考え、表現している。		チャットのやり取りの活動を振り返り、その利便性や効率性などとともに、注意点や問題点についても理解している。

(3) 本時の流れ

	学習活動と内容	指導上の留意点	【評価の観点】 〈評価場面や方法〉
つかむ (5分)	1、前時の学習を振り返り、SNSの利便性について感想を発表させる。 2、教師が『チャット』の機能を使って書いたモデルを見せる。	・前時の活動を思い出しやすいように大型テレビに実際のチャットのやり取りを映す。 資料「教師の悪い例」	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本時の問い SNSを使う時に気をつけなければいけないことを考えよう </div>			
調べる (25分)	3、グループ毎にどんな点に気を付けなければいけないのか、根拠をもとに発表していく。	・教師の提示した資料を元にSNSをする上で「気をつけなければいけないこと」について意見を挙げるようにする。 ・話し合う観点がぶれないように、話し合う観点を児童に伝え、黒板に掲示しておく。 ・具体的に自分たちがどこの部分から考えを持ったか分かるように『～というやり取りから自分たちは～。』という発表ができるようにする。	自分たちが行ったチャットでのやり取りを振り返り、自分たちはどのようなことに気をつけて暮らしていけばよいか考え、表現している。【思】
まとめる (15分)	4、今回の学習で学んだことを元に、自分たちの前回のチャットを見直し、改善点を見つける。 5、今回の学習を元にSNSを利用するときに気を付けなければいけないことについて理解する。	資料「前回行ったチャットのやり取りを撮影した写真」 ・前回のチャットをふり返る中で、特定の児童が批判されないように指導する。	チャットのやり取りの活動を振り返り、その利便性や効率性などとともに、注意点や問題点についても理解している。【知】